

米価下落「支援を」 大館市に緊急要請



J Aあきた北は11月22日、米価下落への対応として融資制度創設や助成制度の実施などの支援策を求める緊急要請を大館市に行った。横手市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生したことを受け、比内地鶏などの防疫体制強化の緊急要望も併せて行った。

本県産米はコロナ禍での外食産業の相次ぐ営業自粛による需要の落ち込みで、厳しい販売環境となっている。本年産のJA概算金はあきたこまち（1等・60⁺）で前年産に比べて2000円低い1万6000円となり、農家への影響が危惧されている。

虻川組合長ら3人が市役所を訪れ、福原淳嗣市長に要請書などを提出。来年の再生産に必要な資金の融資制度の創設や、水田活用の直接支払交付金、県単独支援の転換作物拡大加算の確

実な支払いを求めた。政府に対し、コメの需給と価格の安定、経営の安定化を図るための対策を働き掛けてほしいとした。

鳥インフルエンザ発生を受けて、管内への注意喚起や衛生監視指導の徹底、行政を含めた自衛防疫手法の構築、衛生管理強化に必要な施設整備、専門家の確保などの支援を求めた。

虻川組合長は「コメの価格は上がったりがつたりするが、今回はコロナ禍で先が見通せず、生産者の不安が顕著に出ている。来年以降も継続して生産できるように対策を講じてほしい」と述べた。

福原市長は「生産者が今後に期待を持てるよう、前向きに下支えに取り組みたい」と答えた。鳥インフル対策についても「危機意識を持ち、手抜きなく進めたい」と述べた。